

## 国際防災の10年国際会議開催のお知らせ

過去20年間に於いて、全世界の自然災害による死者は約300万人、被災者は少なくとも8億人以上、直接被災額は約230億ドルに達するといわれています。

昨年のロマ・プリエタ地震、1988年のアルメニア地震、1985年のメキシコ地震、ネバド・デル・ルイス火山噴火等は、人間社会を不意に襲い数多くの尊い人命と財産を一瞬にして奪い去りました。また、アジア地域や西太平洋地域では洪水、サイクロンが毎年のように発生し、しかもその都度膨大な被害をもたらしています。

こうした状況の中、国際連合は、1990年代を、自然災害による被害を軽減するために、世界各国が協調して取り組んでいくための10年とすることを決議しました。

これが、今年から始まる「国際防災の10年」(IDNDR: International Decade for Natural Disaster Reduction)です。

今回の国際会議は、この「国際防災の10年」を記念して開催されるものであり、世界各地の様々な自然災害の現状について専門的に検証し、さらに今後の防災対策のあり方をめぐり、各国及び国際社会は何をなすべきかについて、各分野の専門家から英知を出し合い、今後の対策を模索しようとするものです。この意義をご理解いただき、是非、多くの方々にご参加くださいますよう、ご案内いたします。

### 国際防災の10年国際会議

#### 1. 開催概要

- (1) テーマ Toward A Less Hazardous World In The 21st Century
- (2) 会期 1990.9.27(木)～同年10.3(水)までの7日間  
横浜会議 1990.9.27(木)～同年9.29(土)  
会場 横浜プリンスホテル  
(横浜市磯子区磯子 3-13-3)  
鹿児島会議 1990.10.1(月)～同年10.3(水)  
会場 城山観光ホテル  
(鹿児島市新照院町 41-1)
- (3) 規模 一般参加者も含め、全体として500人程度。
- (4) 参加登録料 無料
- (5) 使用言語 日本語・英語(同時通訳)

1990年7月

2. 主催 国際防災の10年推進本部  
横浜市、鹿児島県、  
国連地域開発センター
3. 協力 国際協力事業団、神奈川県
4. 後援 日本赤十字社、世界銀行、  
赤十字・赤新月社連盟  
UNDRO(国連災害救済調整官事務所)  
UNESCO(国連教育科学文化機関)  
UNDP(国連開発計画)  
WMO(世界気象機関)  
ESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)  
HABITAT(国連人間居住センター)  
ITU(国際電気通信連合)ほか(予定)

#### 5. 国際会議のセッション及び日程

( )内はコーディネーター

- (1) 国際会議予定セッションテーマ
  - A 世界の自然災害現状と IDNDR への期待  
(土岐憲三 京都大学防災研究所教授)
  - B1 各国の防災への取組みと今後の方向  
(柳川喜郎 日本放送協会解説委員)
  - B2 防災対策と国際協力  
(大井英臣 JICA 国際協力専門員)
  - C1 防災対策の成功と失敗—実例を通して学ぶ—  
(片山恒雄 東京大学生産技術研究所教授)
  - C2 都市化と防災  
(伊藤 滋 東京大学先端科学技術研究センター教授)
  - Y 横浜でのまとめ  
(近衛忠輝 日本赤十字社外事部長)
  - D1 被害軽減のための災害情報  
(吉村秀實 日本放送協会解説委員)
  - D2 防災活動における市民参加  
(東浦 洋 日本赤十字社社会部救護課長)
  - E1 災害危険地域に住む知恵  
(伊藤和明 文教大学教授日本放送協会解説委員)
  - E2 災害に強い地域づくり  
(梶 秀樹 筑波大学教授)
  - K 総括討論: IDNDR の推進に向けて

(岡部慶三 東京大学名誉教授)

	9/27 (木)	9/28 (金)	9/29 (土)	横 浜
午前		A	B 2 C 2	
午後	末広重二先生 他, 外国人 1 名	B 1 C 1	Y 横浜市内視察	
	10/1 (月)	10/2 (火)	10/3 (水)	鹿 児 島
午前	開会式 基調講演	D 2 E 2	桜島視察	
午後	D 1 E 1	K		

## 6. 国際防災の10年国際会議企画委員会

委員長 岡部慶三 東京大学名誉教授  
 委員 伊藤和明 文教大学教授, 日本放送協会  
 (順不同) 解説委員  
 伊藤 滋 東京大学先端科学技術研究セ  
 ンター教授

大井英臣 JICA 国際協力専門員  
 片山恒雄 東京大学生産技術研究所教授  
 加茂幸介 京都大学防災研究所教授  
 (桜島火山観測所長)  
 近衛忠輝 日本赤十字社外事部長  
 土岐憲三 京都大学防災研究所教授

## 7. 国際防災の10年国際会議実行委員会

委員長 横浜市長  
 委員長代理 鹿児島県副知事

国際防災の10年国際会議実行委員会事務局

231 横浜市中区港町 2-9 関内駅前第2ビル6階  
 TEL 045 (671) 3613  
 FAX 045 (681) 5089

「国際防災の10年」を推進するため、我が国では内閣  
 総理大臣を本部長とする政府の推進本部が設置されてい  
 ます。

(事務局：国土庁防災局 国際防災の10年推進室)

## 1990年度スーパーコンピュータのCPU時間の無償提供について

スーパーコンピュータ研究所 (ISR) では国内のスー  
 パーコンピュータインテグレーション研究の促進, 基礎研究分野の発  
 展に貢献したいと考えております。「CPU提供制度」は  
 このような目的のもとに, 1987年10月から行っているも  
 のです。今回の募集で入選された研究者の方々には本年  
 10月から翌年3月末の予定で CPU を提供いたします。  
 <募集要項>

**研究テーマ：**スーパーコンピュータの利用方法に関する  
 テーマであれば, 分野は問いません。  
 ただし, 単に大きな計算を行うというもの  
 ではなく, スーパーコンピュータを用いて  
 初めて実現するといったような, 独創的な  
 テーマを広く募集いたします。

**提供内容：**1990年10月より1991年3月末までの期間,  
 弊所の SX-2A の CPU 時間を100時間/  
 1テーマ提供いたします。

**応募資格：**大学生及びそれに準ずる研究者または大  
 学, 公共の研究機関に所属する研究者

**テーマ執筆要項：**A 4版用紙

・英語または日本語のワードプロセッサ使用

・形態 ……第1ページ

表題

氏名, 学校名または勤務先名, 学年または役

職名, 連絡先住所及び電話番号

(連名の場合は全員分記入)

……第2ページ以降

本文 (4ページ以内)

**SX-2A の利用形態：**当研究所に設置してある端末から  
 利用していただきます。

(今回は旅費の支給は行いません)

**応募締切：**1990年8月31日 (金) 必着

**発表：**1990年9月旬

入選テーマ3組を審査委員により選出し,  
 直接通知いたします。

**問い合わせ先：**気象学会事務局